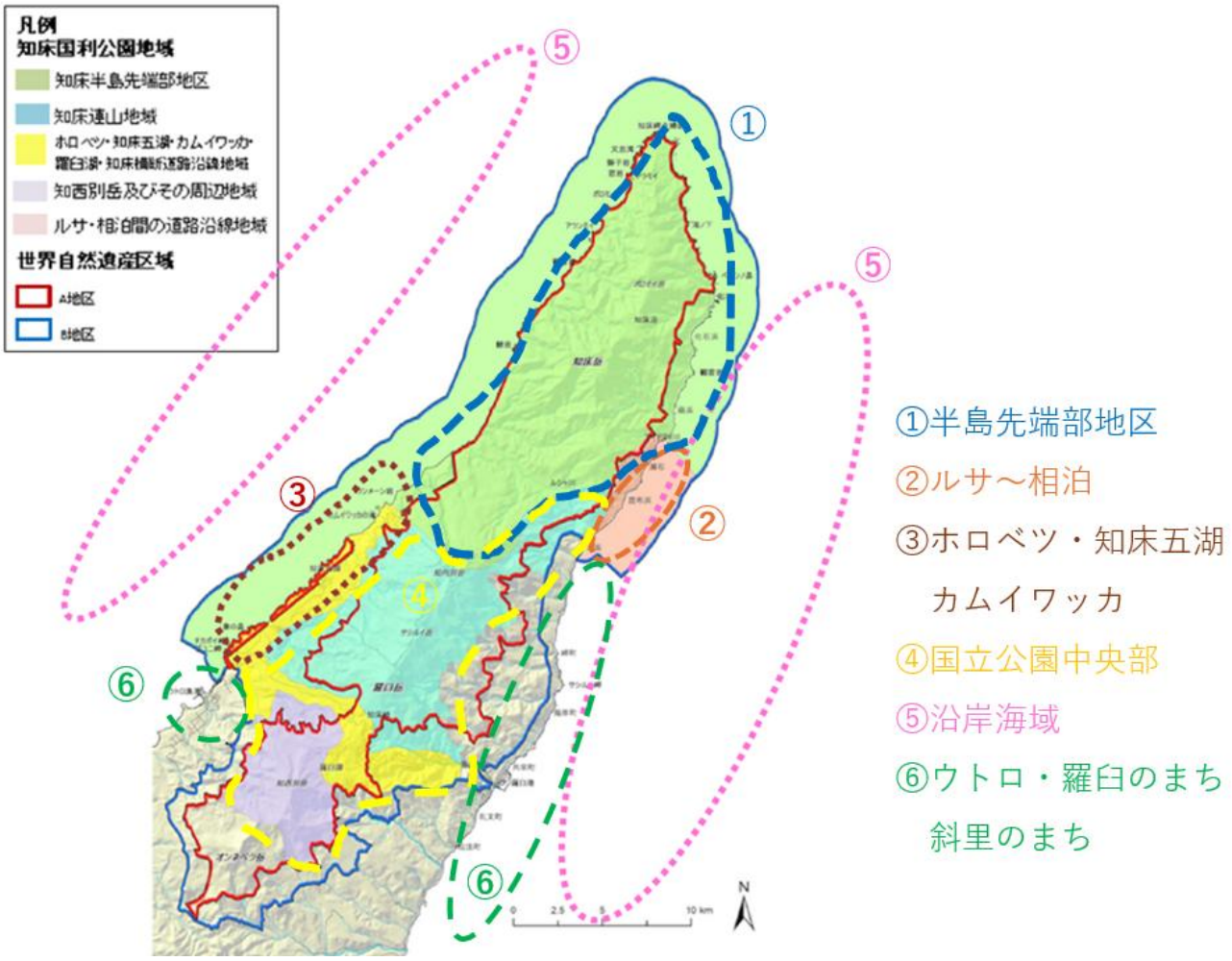
資料２－３　別紙

知床エコツーリズム戦略に盛り込むゾーニング（案）



①先端部地区

歩道や車道などの利用施設が整備されておらず、原始的な自然が残されている地域

急峻な地形が生み出す絶景やありのままの自然の姿、縄文時代から現代まで続く、豊かな海を糧に生きる人々の暮らしを感じることができる。

自己責任による利用を原則とし、環境保全や秘境感の維持のためにも施設整備は抑制し利用ルールの発信を行う。少人数利用が推奨される。

②ルサ～相泊

昆布番屋に代表される漁業の営みの姿や、海岸沿いの温泉での地域の人々との交流、河川でのサケマスの遡上を通じた陸と海の生態系の繋がりを学ぶことが出来る。

漁村景観の維持とルサ地区を活用した利用を進める。

○ルシャ

環境の変化、アクセス問題を踏まえ①先端部地区に統合

③ホロベツ・五湖・カムイワッカ

火山と流氷が生み出す地形や湖沼、原生的な森林　などを比較的手軽に体験することができる。また知床 100 ㎡運動に代表される開拓と保護の歴史も学ぶことができる。

利用拠点として適切な施設整備・維持管理を行う他、主要拠点を中心に利用を適切に誘導し、厳冬期や夜間利用も含めた自然体験の質の確保、混雑緩和、ヒグマとの軋轢防止を一体的に進める。

〇羅臼湖・横断道路沿線

公園計画の観点から国立公園中央部に統合

④国立公園中央部（元：知床連山地域）

高山、湿地、湖沼、深い森、高山植物といった多様な景色・多様な動植物に出会うことができるほか、知床峠からは海と山が近接する特徴的な地形や半島を挟んだ気象の違いを体感することが出来る。

利用施設は現状の規模に留め、登山道等の山岳利用は自己責任を前提としつつ、利用ルールやリスクの周知と維持管理を行う。

〇知西別岳及び周辺

公園計画の観点から国立公園中央部に統合

⑤沿岸海域

オホーツク側の断崖、急峻な根室海峡といった火山と流氷が生み出す地形、ヒグマ・シャチ・オジロワシなどに代表される豊かな生態系、そして冬季には知床の豊かさを特徴づける流氷を間近に体験することができる

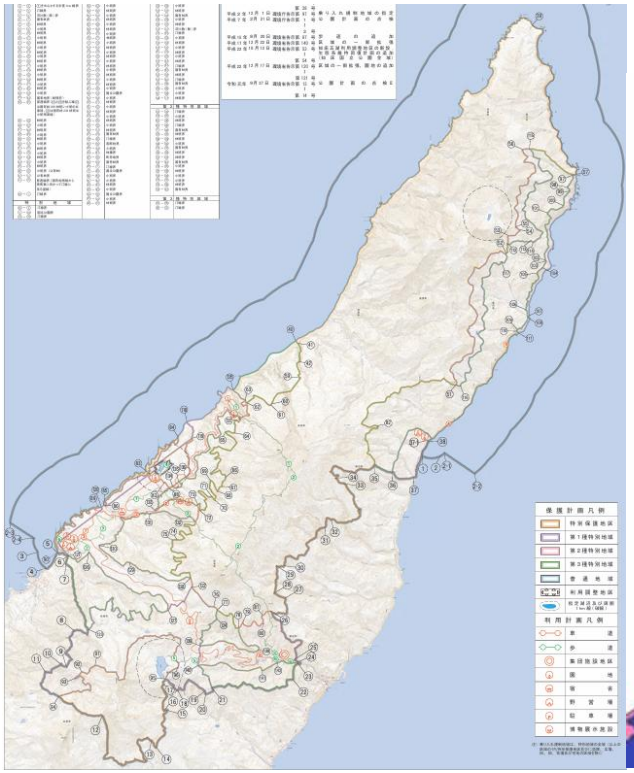
野生生物との適切な距離を維持しつつ、持続可能な観光利用を進める。

⑥ウトロ・羅臼・斜里のまち

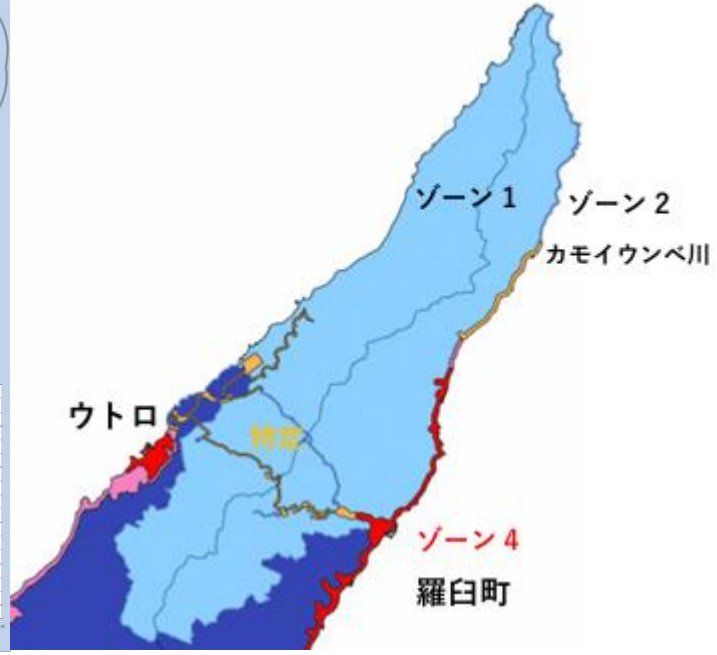
漁業をはじめとした産業を通じた四季折々の暮らしの姿や、飲食店・温泉といった場での地域の人々との交流、サケマスの遡上を通じた陸と海の生態系の繋がりや、オホーツク文化やトビニタイ文化といった歴史を学ぶことが出来る。

来訪者の入口でありビジターセンターや道の駅などの情報発信拠点を活用し、利用のルール・マナーを発信し質の高い自然体験につなげる。

（参考）既存計画のゾーニング



知床国立公園　公園計画図



知床ヒグマ管理計画ゾーニング

森林生態系保護地域